

令和6年度

少年の主張中学校校内大会最優秀作品集

三好中学校2年

石川 さくら

ゆびさきから言葉を伝えたい

北中学校3年

安藤 和子

なんでもよくない

南中学校3年

當間 玲奈

生きる理由

三好丘中学校3年

佐藤 明日香

必要な助け

みよし市青少年健全育成推進協議会
みよし市・みよし市教育委員会

はじめに

みよし市青少年健全育成推進協議会

会長 吉田 増美

日ごろは、みよし市青少年健全育成推進協議会の活動にご理解とご協力を賜り、深く感謝申し上げます。

みよし市青少年健全育成推進協議会では、かねてより「青少年の非行、被害防止に取り組む運動」、「青少年によい本を進める運動」、「家庭の日」推進事業などを通じて、次代を担う青少年の健全育成に努めているところであり、その一環として「少年の主張」事業にも積極的に取り組んでまいりました。

「少年の主張」事業は、多感な時期にある青少年が日ごろ感じていることや実践していることを自分の言葉にまとめ、広く周りに訴えかけることにより、彼ら自身の社会性と自主性を養うとともに、多くの皆様に青少年健全育成への理解を深めていただく機会になればと願い開催しているものです。昨年度までは、市内各小中学校の代表者十二名が一堂に会し「少年の主張みよし市大会」として進めてまいりましたが、今年度からは実施方法を見直し、各学校での校内大会として活動することといたしました。実施したいずれの学校におきましても素晴らしい意見発表が行われました。

この「令和6年度 少年の主張中学校校内大会最優秀作品集」は本年度市内各校で実施された少年の主張校内大会の最優秀作品を集め、はじめてデジタル版として、掲載対象を中学生に限り作成したものととなります。このデジタル版冊子を通じて、青少年の健全育成に対する理解と関心が深まり家庭や学校・地域における青少年の健全育成の一助となれば幸いに存じます。

令和六年九月

ゆびさきから言葉を伝えたい

三好中学校 二年

石川 さくら

「おはよう」「ありがとう」「ごめんなさい」「おやすみ」
私は今、手話で挨拶をしました。手話や指文字、一度はみなさん聞いたことがあると思います。でも何を話しているのかわからない、そんな人が大半なのではないでしょうか。

私が手話に興味をもったのは小学校四年生の時、ネットで歌の歌詞を指文字で表現している人を見たのがきっかけでした。歌が指先で表されていることにすごく興味深さを感じたのです。一字一字形を覚えていくうちに、文字や言葉でしか表せないものが指先で表せることが何よりも楽しく、夢中になってしまいました。

そして中学校の福祉実践教室。実際にろう者の方と手話を交えて会話することができました。そこで初めて、手話を使って会話をする楽しさ、手話が相手に通じたときの喜びを知りました。

夏の眩しい日差しが降り注ぐある日の移動教室、私はすれ違いざまにとある二人の会話を目の当たりにしました。

その二人は指文字を使って話していたのです。美術室に向かう廊下、私は二人から目が離せませんでした。指先はよく見えなくて何を話しているのかはわからなかったけれど、確かにそこには二人の言葉があつて。二人にしかわからない会話があつて。二人だけの世界があつて。私は思わず会話を終えた友達に話しかけ

「指文字使えるの?? 実際に話してるところ、初めて見た!」

と、興奮を抑えられませんでした。それに対し友達は「ほとんど聞こえてると思うけどね。やっぱり使った方が伝わるし」

と微笑みながら返してくれました。その後も何度か指文字で話す二人を見かけては温かい気持ちになると同時に、もっと指文字や手話について知りたい、そう思っていました。

それから数ヶ月。真冬の冷たい空気を避け、温かい布団の中でふとSNSを眺めていると、とあるアニメの予告が目にとまりました。少女漫画が原作で生まれつき耳が聞こえない女の子が主人公の物語でした。その瞬間、画面に映る彼女にグッと心を掴まれた気がしました。音のない世界で悩みながらも自分なりに言葉を伝え、日常を謳歌してい

く主人公、そして作中で何度も使われる手話に釘付けになりました。自分の知らない表現がいくつも登場して、手話一つ一つの形に意味があつて、その度に勉強になり自分の世界がどんどん広がっていくような感覚でした。

作中で大きく印象に残ったのは、何度か描かれていた聴覚障がい者特有の悩みでした。

例えば、気になる人に連絡先を聞きたいとき、声で「連絡先を教えてください」と聞くと普通に感じますが、文字で書くとき少し重く感じてしまったり。他にも、自分が聞きたくないようなネガティブな話題でも、口の動きを読むために目を合わせなければならなくて、少し残酷だと感じてしまったり。

私はこの作品のおかげで聴覚障がい者本人の視点で世界を見られるようになりました。

手話は、聴覚障がい者のコミュニケーションの一つとして存在しますが、やはり今の時代スマートフォンやパソコンなどで文字を打てば簡単に会話することもできるので、手話なんて必要ないのでは？と思う人も多いでしょう。確かに私もそう思ったことはあります。

でも、考えてみてください。私たちの多くは普段「嬉しい」「悲しい」などの感情を伝える際、声のトーンや表情で

気持ちを表していると思いますが、それができないからといって文面だけで感情を伝えるのってなんだか寂しくないですか。表情や手指、体の動きなどを使って「嬉しい」「悲しい」と表現する方が自分も感情を伝えやすいほか、相手にも素直に感情を受け取ってもらえるのではないのでしょうか。

手話は「手で話し、目で聞く言語」と言われており、日本語や外国語と同じように独自の言語なのです。聴覚障がい者の中でも「ろう者」にとっては手話が母語でありコミュニケーションをとる上で必要不可欠なのです。

聞こえる側からしてみれば手話は程遠い存在だと感じるかもしれませんが、もっと身近に捉えてみてください。これからの長い人生、どんなところでどんな人に出会えるかわかりません。もしかしたら聴覚障がい者の方が困っている場面に出くわすかもしれません。そんなとき手話を使つて助けられたらものすごくかっこよくないですか。覚えていればいつかきつと役に立ちます。自分の世界を、視野を大きく広げてくれます。みなさんも手話の世界、一度体験してみてくださいいかがでしょうか。

なんでもよくない

北中学校 三年

安 藤 和 子

「なんでもいいよ。」この言葉が私の口癖でした。母に「夕飯何がいい？」と聞かれたときも、友達に「どこへ遊びに行く？」と聞かれたときも、私は決まって、「なんでもいい。」と言っていました。みなさんも「なんでもいい。」を使った経験があるのではないのでしょうか。

私は、自分の意見や考えがあっても、それらに自信をもつことができず、優柔不断になつてしまい、その結果、「なんでもいいよ」になつてしまうことに気がきました。周りの友達や級友は、自分の意見をしっかりと、発信している子が多くいました。そんな姿を見て、うらやましいなと思うと同時に、自分の意見すらうまく伝えられない私は、なんてだめなんだろう、と自己嫌悪に陥っていました。

そんな私に気付きを与えてくれたのが、家族の言葉です。ある日、私は母に「何食べたい？」と聞かれたとき、「なんでもいい。」を使いました。そのとき、母に「本当になんでもいいの？なんか、考えてもらえていないみたいで悲しいな。」と言われました。私は、知らず知らずのうちに、家族

を傷つけていたと気付きました。「なんでもいい。」しか使えない自分も嫌だったけれど、そのことで家族や友人を傷つけていたと分かり、悲しくなりました。

私は、そんな自分を変えたいと思い、意識して、「なんでもいい。」を使わないようにしました。実行委員で出し物を決めるときや、友達と遊ぶ約束をするとき、洋服を選ぶときなど、どんなささいなことも、しっかりと考えて自分の意見を発信することを心がけました。最初は考えがまとまらなかったり、うまく意見を伝えられなかったりして、失敗してしまうこともありましたが、でも、まずは友達に、次はグループの人たちに聞いてもらおう、というように、少しずつ意見を聞いてもらう人を増やすことで、うまく話せるようになり、いつの間にか「なんでもいい。」を使わず、人と接することができるようになりました。「なんでもいい。」と使わなくなったことで、家族や友人と、前よりも楽しく話せるようになり、以前は自分の意見をもてず、あまり参加できていなかった授業中の話し合いも、与えられた課題をしっかりと考え、周りの人と意見を共有し、クラス全体に発表することができるようになりました。

「なんでもいい。」と言う前に、物事をしっかり考え、向

き合い、伝えること。簡単そうだけれど、やってみるとけっこう難しい。

それでも、私は、自分の意見をしっかりとって生活したいと思っています。しかし、たまに「なんでもいい。」を使ってしまう。なんでもかんでも発信しようとするとか疲れてしまいます。それでも、「なんでもいい。」と言われたら、考えてくれていないのかな、と不安な気持ちになりますよね。だから私は「なんでもいい。」ではなく、「私もいいと思う。」という言葉を使おうと思っています。考えていることを放棄しているわけではなく、考えた上で、他の人の意見を聞き、いいな、と思ったときは、「いいね。」と言ひ、話し合いにしっかりと参加しようという意味で使おうと思います。

私は今年、受験生という立場で、自分の未来を自分で決めています。

それは、自分の人生を左右するかもしれない決断。周りの人に支えてもらうだけでなく、自分の足で立ち、よく考え、決めていきたいです。中学校で培った自信と、発信する力で、これから来るであろうたくさんの決断すべきことを「なんでもいい」で済ますのではなく、自分の意思で「なんでもよくない未来」を歩みたいと思います。

生きる理由

南中学校 三年

當 間 玲 奈

今では社会問題と言われることも増えている若者の自殺。年間約二万二千人。およそ二十分に一人が命を落としています。また、十代から三十代までの年齢層では、自殺が原因で亡くなる人が最も多いのです。

自殺は自分自身の命だけでなく、この先の人生までも自らの手で断ち切る、当事者にとって苦痛から解放される最後の手段です。自殺が善悪かどうか、という問題ではなく、多くの若者がそこまで追いつめられる原因は何か、当事者だけの問題なのか。それが自殺という言葉に抱いた第一印象でした。

多くの場合、学校や職場でのいじめ、家庭、人間関係のもつれが原因だとされています。ですが、ある日偶然目にした記事を見て、考えが大きく変わりました。

「僕に自殺願望があった時期は、何のために生きているのか分からなかった。」

思いもよらない言葉でした。ですが、その言葉に納得してしまふ私もいたのです。

「生きる理由は何か。」そう聞かれたとき、あなたならどう答えますか。夢ややりたいことのように、具体的ではなく、道徳のような質問を投げかけられても、多くの人はすぐに答えられないでしょう。私自身も、毎日食事をして、学校へ行き、友人と談笑し、家で自由な時間を過ごす。そんな日々にも理由をもって生きているのか。そう考えると、理由などありませんでした。もし、生きる理由が分からないうという思いが、多くの人の自殺願望へと繋げていたとしたら。思春期という悩みの絶えない時期を生きる私たちは、少しのきっかけで死を考えてしまおうと思いませんか。私は、普段の生活や何気ない行動にまで価値を見いだそうとしてしまう性格で、そんな自分が昔から嫌いでした。そんな自分を少しでも変えたいと思い、一日、一か月の目標を立てつつ、毎日の頑張ったことを日記として書き始めました。また、日々生きていく中で、他人にされて嬉しかったこと、誰かのためにになった自分の行動を書き留め、見返すようにしました。そうすることで、どんな一日でも、前より意味のある日になり、一つ一つにやりがいも生まれました。

そのような生活を続ける中で、私を感じたことは、生きていく理由の一つではないということでした。例えば、将来の夢を叶えるために生きる人、友人と会話するために生

きる人、美味しいものを食べたくて生きる人。理由なんて様々で、いくつもあっていいと、十五年生きてきて、初めて気づきました。

それからというものの、今まで日々の目標としていたものを、生きる理由のピースとして、嬉しかったことや誰かの役に立てた行動は、モチベーションへと変換するようにしています。そうすることで、今以上に楽しい、嬉しい、と強く感じる瞬間は何倍にも増え、気分が落ち込むことも減りました。また、今まで何気なくとっていた行動や習慣に対して、意味や大切さに気付き、充実した日々になるにつれて、少しだけ自分を好きになれました。

私たちは意思もなくこの地球に産み落とされ、今この瞬間もがむしゃらに生きています。

生きる理由。人によって答えも異なり、正解は存在しません。だからこそ、私たちを悩ませています。ですが、新しい一步を踏み出すエネルギーとなり、転んでも再び立ち上がれる。あなたの生きる希望となり鮮やかな毎日になるのなら、どんなに小さな理由でも、あなただけの大切な生きる理由なのです。

二度と経験することのないこの瞬間に、全力になること。八十億人の中から偶然巡り合った家族や仲間、大切な人と

の毎日を、後悔がないようにすること。これが私の生きる理由。

あなたの生きる理由は、何ですか。

必要な助け

三好丘中学校 三年

佐藤 明日香

みなさんは、誰かを助けるときにどんなことを意識していますか。また、助けられたとき、どんな思いをもちますか。学校生活の中でも、仲間と助け合い、授業や行事を行うことがたくさんあると思います。

そこで、私は「助ける」という行動を「助けられる」側から考えてみました。

このことを考えたきっかけは、足を骨折したことでした。一か月間のギブスと松葉杖生活が続き、いつも当たり前に行っていたことができない体験をしたからです。とてもどこかしい気持ちでいっぱいでした。

そんな中、友達や先生方が荷物を持ってくれたり、声をかけてくれたりいろいろな手伝いをしてくれました。すごくありがたく、うれしかったです。そしてもう一つ、不思議な気持ちが生まりました。骨折してもすべてができなくなるわけではなく、やれることもたくさんあるのに、と助けてくれる人によってしまったのです。それは、けがをしていなかったら、今まで通りに、部活動や友達と遊ぶこと

ができていたはずなのに、という悲しい思いからくるものだったと思います。私のことを心配して助けてくれるのだと思います。私も、周りの誰かがけがをしてしまったとき、助けたいと思います。その気持ちは、相手に寄り添おうという優しい思いやりの心からくるもので、間違いではありません。

けれど私は、けがだからと自分を甘やかしすぎることは、自分はこのことができないと認めているようで、とても悔しく感じられました。手伝ってほしくないわけではなく、複雑で表現できない気持ちでした。

私は、骨折した体験から、人を助ける行動には、その人にとつての「必要な助け」があると考えました。

松葉杖を使って移動していた時のことです。自分が持っている荷物が邪魔で助けてほしいと思ったことがあります。けれど、相手に迷惑になっていないかな、頼むのが恥ずかしいなという気持ちから、手伝ってほしいと言いだすことができませんでした。でも、私が困っていることに気付いてくれた友達が、

「何か手伝おうか。」

と言ってくれました。その一言で少し心が軽くなり、荷物を持ってほしいという今私が必要な助けを友達に求め

ることができました。

私は、この体験から二つのことに気が付きました。

一つ目は、人を助けるときには、その人がその時必要としている助けが何かを知ることが大切だということです。人を助けようと行動にうつすことは、勇気が必要です。けれど、その助けが本当に必要かどうかは、本人にしかわかりません。本人は、私もできることがしたいと思っていますかもしれない。だから、助ける側は、私に何かお手伝いできることはありますか、と聞いて確認することが必要だと思います。

もう一つは、助けを求めるとき、何をどう助けてほしいのかはつきり伝えることが大切だということです。言葉にしないと助けてほしいという気持ちが相手に伝わらないこともあると感じました。

これから私は、人を助けようと行動にうつすとき、その人が求めている助けを聞けるようになりたいです。周りから大丈夫ですかと一言声をかけてもらえただけでも心が軽くなると実感しました。相手の立場だったらどう感じるのか考えて行動できるようにしたいと思います。また、自分からも助けてもらいたいことを伝えられるようにしたいです。

そうすれば、助ける側助けられる側ともに、何をしてほしいのかなど伝え合うことができ、互いに意思を尊重し、気持ちよく過ごすことができると思います。

「助ける」という行動は、人の複雑な心と常に隣りあわせだと思っています。みなさんも、このことを心の隅にとめておいてほしいです。また、助けられる側も、気遣ってくれる人への感謝の気持ちを忘れずにいてほしいです。互いのこのような気持ちは、きっと相手にも伝わります。

助ける側も助けられる側も互いの気持ちを分かり合えば、笑顔で生活できることが増えるのではないのでしょうか。

令和六年度少年の主張中学校校内大会最優秀作品集

令和六年九月

みよし市青少年健全育成推進協議会

みよし市・みよし市教育委員会